

8月定例記者会見の概要

1 日 時 令和8年8月4日（火）9時00分～9時30分

2 場 所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ⑤ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑥ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）

計 6 社

< 市側 >

・市長・総務部長

（テレビ会議）

・副市長・教育長・小高区役所長・鹿島区役所長

・復興企画部長・市民生活部長・健康福祉部長

・こども未来部長・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事

・農林水産部長・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 16 人

（司会進行）秘書課長

（会議記録）秘書課広報広聴係

【市政報告】

はじめに、前回7月7日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたします。

はじめに、7月28日に発生した「令和8年熊本地震」についてです。

今回の地震で犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

本市では、熊本地方への支援として募金の受け付けを開始しました。7月29日から市役所、7月30日からは小高・鹿島区役所、市立総合病院の窓口に、募金箱を設置しております。本市が、大震災からの復興の過程で多くのご支援をたまわっております。こうしたことから、これまでの募金活動においても市民の皆様からの多くの温かいご支援、ご協力をいただいております、改めて御礼申し上げます。

被災地域の早期復旧を心よりお祈りいたします。

次に、海外との交流についてです。

本市は今年、市制施行20周年を迎えましたが、アメリカ合衆国ペンデルトン市との姉妹都市協定も20周年を迎え、一つの節目の年となっております。これま

で、両市の間で行われてきた相互派遣交流事業は、東日本大震災や世界的な新型コロナウイルス蔓延による中止を挟みながらも、継続して実施してきました。交流実績としては、旧原町市時代から数えると、計111人受け入れました。南相馬市派遣団は計131人を派遣しております。

この派遣事業に参加した学生の中には、将来英語教諭になることを目指し外国語学部に進学された方や、国際系の学部に進学された方も多くいると聞いております。海外との交流体験という貴重な機会を通じ、参加された学生一人ひとりが、自分なりの視点や気づきを得てくれることを頼もしく思っています。

今年度は、ペンドルトン市の学生5人を7月15日から28日まで受け入れ、滞在中には北泉海岸でのサーフィンや甲冑着付けなどを体験していただきました。

8月4日からは本市の高校生6人が派遣団としてペンドルトン市を訪問します。8月18日に帰国する予定です。

なお、本市派遣団の6人中5人は、7月にお越しいただいた、ペンドルトンの派遣団を受け入れたホストファミリーのお子さんです。ホストファミリー同士の相互交流なども進んでいるところです。

また、市内の中学2年生12人がオーストラリアで海外研修を行うため、8月6日にオーストラリア・シドニーに向けて出発します。この間、ホームステイなども経験いたします。また、来年3月には、同じく中学2年生を対象にシンガポールでの海外研修を行う予定です。

これからも海外研修は継続したいと考えておりますし、また今後、応募いただいた子ども全員が研修に参加できるようにしたいと考えております。中学生の海外研修参加の気持ちのハードルが少しでも下がり、多くの皆様に応募していただくことを期待しております。

次に、少年の主張についてです。

中学生が、将来の夢や社会への提言などを発表する「少年の主張 南相馬市大会」を、7月16日にサンライフ南相馬で開催しました。市内の中学生12名が自分たちの思いを力強く発表しました。

最優秀賞に選ばれた、小高中学校の伏見 夢愛来さんと風間 陽和さん、石神中学校の木幡 陽那さん、原町第一中学校の舟山 紅美さんの計4名は、9月25日の県大会の出場候補として推薦されます。

次に、北泉海水浴場についてです。

7月18日、北泉海水浴場で海開きが行われました。海水浴場の設置は、8月23日までとなっており、8月2日までに、約5千人にご利用いただいています。

なお、北泉海浜総合公園内の臨時キャンプ場は、海水浴場の開設期間中は毎日宿泊でき、海水浴場の終了後は10月31日まで、金土日・祝日にご利用いただけます。また、8月8日には、原町商工会議所青年部主催による「北泉サマーフェスティバル2026」が開催されます。ぜひ北泉海水浴場をご利用いただきたいと思います。

次に、市制施行20周年・東日本大震災15年式典についてです。

本市のこれまでの歩みを振り返り、未来への希望を次世代へつなげるため、7月25日にゆめはっとなにおいて、市制施行20周年・東日本大震災15年式典を開催いたしました。

当日は、合併に多大なるご尽力をいただいた皆様へ感謝状を贈呈させていただきました。その他、これまでの歩みを振り返る記念動画の放映、また、福島県立医科大学の坪倉主任教授にご講演いただいたほか、原町高等学校吹奏楽部の皆様に演奏を披露していただきました。

次に、市議会臨時会についてです。

7月27日に、第3回市議会臨時会を開催しました。

川房地区複合型園芸施設整備事業に関する補正予算案1件を提出し、原案どおり可決されました。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、南相馬の主要事業の市民説明会についてです。

市は8月5日はかしま交流センター、8月6日はサンライフ南相馬において、いずれも18時から、現在検討を進めている事業に関する市民説明会を開催します。ご説明する事業は2つです。

1つ目は、「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発事業」です。こちらは、本事業の考え方や方向性を示す「南相馬鹿島サービスエリア周辺開発基本計画」を策定したところであり、いよいよ10月には民間事業者の募集を開始するタイミングでの説明会となります。

2つ目は、原町区の旧グリーンパークを中心としたエリアである「泉・北泉周辺等の整備・利活用事業」です。こちらにつきましても、国との協議が進んでおり、利活用計画を策定したことから、現状の説明をするものです。

いずれの事業も皆様の関心が高い事業と思われます。「実際にどんな整備が行われるのか」と疑問をお持ちの方もいらっしゃると思います。そうした疑問にお答えし、具体的な内容を丁寧にご説明しますので、ぜひご参加ください。

次に、福島スペースカンファレンスについてです。

8月7日、一般社団法人宇宙産業連携機構と市は、昨年に続き、東北最大級の宇宙ビジネスイベント「福島スペースカンファレンス2026」を開催いたします。

本カンファレンスは年々注目度が高まっており、昨年から1会場を増やした計4会場へと会場を広げて展開します。

宇宙産業に関連するテーマに基づくトークセッションや、参加者同士の交流会が行われます。ここでの活発な議論は、もはや市内にとどまらず、東北各県の広域連携へとつながる新たな動きを生み出しつつあります。

本市がしっかりとその中心となり、南相馬から東北へ、そして宇宙産業全体を力強く盛り上げることができればと思っています。

次に、夏のイベントについてです。

市内では、今年も夏のイベントが開催されます。8月8日は、原町区で、原町商工会議所青年部主催による「北泉サマーフェスティバル2026」、8月9日は、鹿島区で、実行委員会主催による「かしまのなつまつり」、8月14日に、小高区で小高商工会主催による「おだか夏まつり」がそれぞれ開催されます。

また、市内各地でも夏のイベントが行われるようです。市で把握している一例をご紹介しますと、既に開催されたものとしては、原町区の「ひがし地区夏祭り」など、今後の開催予定としては、8月8日に小高区の「桃内地区盆踊り交流会」、8月13日に鹿島区の「塩崎絆盆踊り大会」などが開催予定です。夏の思い出作りの機会を設けていただくことに感謝申し上げます。ぜひ1人でも多くご参加いただければ嬉しく思います。

最後に、新しいチャレンジ事業を2つご紹介いたします。

一つ目は、図書館等における、月曜祝日の開館の試行実施についてです。

現在、図書館及び市民情報交流センターでは月曜日を休みとしておりますが、9月から11月、来年1月にある「月曜日の祝日」を開館とし、その翌日を休館とする試行的な運用を実施します。

こども未来ミーティングU18において、市内の小・中・高校生から「通常は休館日である月曜日が祝日の場合でも、勉強や読書ができる場として図書館を開館してほしい」との意見が寄せられました。このことから、今回試行として実施するものです。

二つ目は、衛星・地形データとAIを活用した農業行政支援についてです。

市はLAND INSIGHT株式会社、Penguin Labs 合同会社と共同で、農業行政の効率化に向けた実証実験に取り組みます。

これまで中山間地域に交付される交付金制度は、手続きや書類作成の煩雑さから利用率が低い状況でした。今後、デジタル技術を活用して、申請事務をお手伝いします。順調に進めば、年間1～2億程度の交付金が期待できる事業です。

なお、本事業は、市議会における予算案の議決を前提とするもので、具体的な実施時期や実施体制については、予算成立後決定してまいります。

【質疑応答】

質問1：

図書館の月曜祝日開館について、他市の取り組み状況を教えてください。

回答1：市長

他市でも既に取り組まれており、県内初の取り組みではありません。

質問2：

例年と開催時期が異なる8月15日に、戦没者追悼式を実施することとした理由を教えてください

回答2：健康福祉部長

戦没者追悼式は、昨年度まで遺族会が主体となって運営してきましたが、会員の減少や高齢化が進み、従来通りの運営が困難な状況となりました。また、遺族会より、全国戦没者追悼式と同じ8月15日に執り行いたいとの強いご要望をいただき

ました。

こうした現状とご要望を踏まえ、市と遺族会で協議を重ねた結果、次年度より市が主催を引き継ぎ、開催日を8月15日に変更することといたしました。

質問3：

ALPS処理水の放出開始から3年が経過しました。当初は海水浴場への影響などが懸念されていましたが、現在のリスク認識や市民の反応はいかがでしょうか。また、今後、国や東京電力に対して要望することはありますか。

回答3：市長

放出当初は前例のない事態であり、海水浴場やサーフィン大会への影響、またナマコなどの水産物に対する買い控えが一部で発生するなど、市民にも不安がありました。

しかし、その後、国や東京電力による調査とデータ公表が継続され、現在、市民から大きな苦情や混乱は寄せられておりません。放出のプロセスも定着し、現時点では大きなリスクや混乱はないものと認識しています。

今後要望することとして、第一に測定を継続し、その結果を迅速かつ正確に公表し続けることを強く求めます。

関心が薄まりつつある現状においても、必要な時に誰もがいつでもデータを確認できる状態を維持することが、市民との信頼関係において最も重要です。現時点で特段の追加要望はありませんが、引き続き現状の取り組みを丁寧に継続していただきたいと考えています。

以上